2018年度予算案の叩き台を作成しました。次回例会で確定して ください。（確定しないと予算案は作れません）

（前提）一般会計で30万円程度の余剰が生じているため、会費を 年間6000円に引き下げるとともに余剰金を装備費や交流費等の 会員全体の経費に充当することで徐々に費消することを目指す。ま た、将来的に会員数が減少する可能性も考慮したバッファーとして も充当する。将来的に一般会計の余剰が解消した際には遭難対策基 金の費消も検討する。

１． 運営対応収入：在籍30名―退会1名の29名×6000円で計算

２． 連盟費：11月末在籍者数30名で計算

３． 会場費・ＨＰ費・装備移送費・雑費：直近の実績等で計算（必要経 費）

４． 決定を要する経費

* 1. 装備購入費：早田さんからテント・沢用ザイル4本の購入提議あり 、可否及び予算計上額はどうするか？
	2. 装備会計繰入：29人体制を前提とすると年度対応予算は4000 0円程度が妥当レベルとなるが、来年度の装備購入費が不足する場 合は追加計上する。
	3. 交流費：長野さんより20000円～30000円の予算請求があ るが、可否及び予算計上額はどうするか？
	4. 予備費：端数調整で計上
	5. 装備関係費及び交流費の考え方：

基本的に運営対応収入から連盟費及び必要経費を差し引くと残余は 40000円程度となるのでこれを装備費に充当する。但し、装備 費は実際の購入の有無により毎年変動するので、基本的に残余額を 装備会計に繰入れ、実際の購入は装備会計から払い出す形として運 営対応経費の枠外とする。装備購入額が嵩み残額がマイナスとなる 場合は余剰金の費消として追加計上する。交流費はすべて余剰金費 消の対象と考える。

会計担当：桑原